ラベルニュース社 2018

1971年6月3日 第3種郵便物認可

トラベルニュース THE TRAVEL NEWS at always tour.

2018年（平成30年） 6月10日 [第852号] 毎月10・25日発行

発行所 株式会社トラベルニュース社
大阪本社 〒530-0047 大阪市北区西天満5丁目10-17 西天満パークビル6F
電話:06-6311-9169 FAX:06-6311-2949
web http://www.travelnews.co.jp
e-mail info@travelnews.co.jp
東京総局 〒104-0033 東京都中央区新川1-3-2 大田ビル1F
電話:03-6699-5494 FAX:03-6699-5544
購読料 年間16,500円(税・送料込み)
振替口座 00950-1-13027

池田 良穂（大阪経済法科大学 客員教授）の 新クルーズ学 ▶8◀

離島振興に船旅の視点

この2月に、ちょっと変わった船旅を楽しみました。定期フェリーを利用したアイランドホッピングツアーで、阪急交通社のトラピックスが企画したものです。

その旅は、大阪から飛行機で与論島に入り、沖永良部島、徳之島、奄美大島と各島で1泊しながら、島の間の移動には鹿児島ー那覇間に就航する大型フェリーを利用するというもの。毎回20組限定で、しかも20歳以上に限った大人旅です。宿泊も、各島で最高級の宿を厳選しています。

筆者が若いころは、日本でも離島ブームがあり、多くの若者が離島を目指しました。しかし、今、離島の多くは過疎化に直面し、離島航路の定期船の経営もたいへんな状況になっています。政府も離島振興に本腰をいれる方針で各種の施策を実施していますが、多くの国民が離島に目を向けなければ本当の意味での離島振興にはつながりません。

こんな状況の下で、都会の人々を離島に誘う新しい旅のスタイルとして、この飛行機と船と島の宿を組み合わせた「アイランドホッピングの旅」は、離島の観光客そして離島航路の乗客の増加に大きな影響を与えるのではないかと大きな期待をもって、このツアーに参加しました。

鹿児島空港で小型機に乗り換えて、昼には与論島の空港に降り立ちました。船なら丸2日はかかりますから、飛行機は速い。与論島の青い海を見ながらのリゾートホテルでの昼食から旅が始まりました。島内観光を楽しんで、翌日は沖永良部島にマルエーフェリーの新鋭船「フェリー波之上」で2時間の船旅で到着。宿泊は天皇陛下も宿泊したという島一番の観光ホテル。ホテルの窓から見える太平洋が雄大でした。

翌日の船はマリックスラインの「クイーンコーラル8」。この船の名前は、筆者が新婚旅行で乗船した船と同じ「クイーンコーラル」で、会社名は変わりましたが、その後継です。徳之島まで2時間あまりの航海でした。

そして最後の徳之島から奄美大島へは「フェリーあけぼの」で、3時間半の船旅でした。

このツアーに参加してみて、主役は残念ながら「船」でないことを実感しました。企画した旅行会社にも「クルーズ」というイメージは頭にないようでした。添乗員も、島のバスガイドも、船に乗る前に、必ず「船酔いをするから、乗船したらすぐにお弁当を食べて、船室で横になってください」とのアドバイス。船のレストランは一度も使わずに、島で泊まった宿のお弁当でした。まだ寒い時期だったこともあり、デッキで海風を浴びながら、雄大な海の景色を楽しむ参加者もほとんどいませんでした。

もう少し、ブームの到来している「クルーズ」を、旅の要素として取り入れてもらえたら、もっと魅力的なアイランドホッピングツアーになりそうに思うのですが。

鹿児島ー奄美ー沖縄航路に就航する定期フェリー「クイーンコーラル」